

当面的スローガン

- 本年こそ「人権侵害救済法」を制定させよう!
- 狭山再審闘争の勝利をかちとろう!
- 続発する差別事件の糾弾を徹底しよう!



発行所
解放新聞和歌山支局
 〒640-8314
 和歌山市神前 405-3
 TEL 073-473-2301
 FAX 073-473-2302
 発行責任者
藤本哲史



戦争について考える紙芝居を報告する善明寺識字学級の生徒たち



学習成果がひろうされた



文字を書く喜びが伝わってくる



命を大切にすることを説く田仲さん

文字を紡ぎ、時を紡ぐ

よみかき交流会

2015年度よみかき交流会が1月23日、24日、白浜町ホテルシーモアでひらかれ、識字生・指導者・支部代表・行政関係者など約110人が参加した。

初日の研修では、体験発表として田辺識字学級の畑口真佑美さんから「私と識字学級」と題して、自分が低学年の時、母は仕事で帰

りが遅く宿題を祖母に教えてもらおうとしたが、祖母は字が分からないことを知り、祖母と一緒に識字学級にかよった。しばらく識字

学級から離れていたが、祖母を識字学級に送迎するうちに、自分と子どももかようなようになった。

また、実践発表では、同じく田辺識字学級の庄司晴世さんから『楽しみながら「識字」を』と題して、識字学級の歩みと大事にしていること、地図をつかった勉強や認知症予防に70歳からの健康法をとりいれ学習している。一昨年から若い人が学習に参加してくれて話題も変わり、自分の若い時と重なった時を紡いでい

ることを感じる。また、年に一度のよみかき交流会で、みなさんに会い自分の学習成果を展示できることが嬉しいと発表された。

善明寺支部識字学級からの実践発表では『敗戦70年』をむかえ、戦争と私たち』と題し、昨年は敗戦70年目の年、安保法制の強行採決や命の重さ、家族の大切さ、みんなが安心して生活できることを考えなければならぬと紙芝居で発表された。その後、各識字学習者等の学習資料の見学をし、5つの分散会に分かれて「識字の楽しさ」とこれ

から」について協議しあった。また、夜の懇親会は笑いのたえない盛り上がりだった。

2日目は、各分散会で話し合われた報告と識字運動にかかわり、とりくんでこられた実践報告を田仲敦三・御所市人権教育推進協議会会長より「識字とわたし」奈良県における識字運動」の講演をうけた。講演は、笑いをまじえながらすすめられ、識字は字を書いたり、読んだりよりも話をするのが8割大事である。「人権は命」。命を大事にすることが人権であると識字への深い思いを話された。

頑健

気づくともう春。3月は弥生「冬の寒さが終息を迎え、いよいよ生き生きとした緑の季節が」ということが語源らしいがわかりづらい。つまり「もう春ですよ」ということだ▼話がかわるが、先日テレビで関口宏さんと美輪明宏さんの対談をみた。「若いころ同性愛者であることをカミングアウトした。そのとたんに、仕事もなにも私の周りから消えていった。それまでチャホヤされていたのに突然です」「私の知人が、会社に同性愛者であることがわかってクビになり、自らの命を絶つてしまったのです。彼は将来を嘱望されていた大企業の超エリートだった

が。」美輪さんは「私は、ありのまま、自然に生きたいと思って今日まで来たのです」と結んでいた▼美輪さんの話ではないが「ありのままに生きる」(自分の生き方は自分で決める)。それを他者が尊重するというのが人権の基本であると思う。私たちの周りには、さまざまな個性や違いをもった人びとが暮らしている。それらすべての人が社会の構成員として例外なく尊重されなくてはならない▼今年の11月に「日本国憲法」公布70年を迎えるが、この間の一定の前進はあるものの依然として状況は厳しい。差別、偏見、貧困などである▼もうすぐ春。今年、自由に伸びやかに、生きとし生くるものにとつて喜びの春となるのだろうか。